

## 11月6日(月)その92 演題「東風平中創立100周年の時、あなたは・・・？」

私は平成25年度、東風平中の校長になった。定年まで後3年、「よし、東風平中でホップ、ステップ、ジャンプで卒業だ！」と思っていた。県の校長会長で九州校長研究大会の沖縄開催も控えていたので、職員にも「出張も多くなるが、一緒に頑張りよう！」と話した。ところが平成26年度は、義務教育課長になっていた。「ありや、!？」・・・人事は何が起きるかわからない！

だから東風平中には、少し後ろ髪を引かれる思いがあった。かなり頭髪が薄くなってしまったが・・・まだ引かれるぐらいはある。(笑)

先週その東風平中の校長・教頭から、12月に60分間の「70周年記念講話」をしてほしいと依頼された。全校生徒と保護者、職員で800人余とのこと。東風平中でやったパワーポイントの校長講話の画像等も数多く残っている。よっしゃ！これを引き受ければ、後ろ髪を引かれる思いが消えて、髪の毛も保護できる！(笑)

この3連休は、その取材のために多くの時間を使った。3日(金)は東風平中の「彩雲祭」を見学した。4日、5日は、八重瀬町の4年に一度の「YAESE結フェスタ」を見に行った。講話で使う画像を撮るために、何度も会場と家を往復して忙しかった。オホン！多くの写真を撮り、200枚以上の写真を選んで昨日の夜でスライドにした。放送中の「ドクターX」外科医・大門未知子は、「私、失敗しないので！」の決めゼリフがあるが、大城朗も講話は、「私、失敗しないので！」なのだ。(笑)

これまで依頼された講話は、十分時間をかけじっくりと作成してきた。

東風平中は、「ふるさと学習」を頑張っている。1年生は総合的な学習の時間で「地域」について学び、2年生は「職場体験学習」、そして3年生が外部講師の指導を仰ぎつつ「空手、棒術、琉球舞踊、組踊」をやっていて、その発表の場が「彩雲祭」なのだ。組踊は、自身が組踊の実演家である八重瀬町職員の神谷武史さんらの指導を20年も受けている。「3年生になったら、豪華な衣装で組踊ができる！」というのが、1・2年生のあこがれなのだ。

日々の授業のことは忘れても、彩雲祭で組踊に出演したことは、30年経っても忘れないだろう。「ふるさと意識」を持ち、八重瀬町東風平がふるさとであることに誇りを持って、生きていく子ども達が増えたい。ただ住んでいるだけでは、「ふるさと意識」は育たない。多くの人との関わりの中で、自分自身が成長していった場所がふるさとなのである。

70周年記念講話の演題を「東風平中創立100周年の時、あなたは・・・？」にしようかと考えている(仮称)。ふるさと東風平村・東風平町・八重瀬町の歴史を語り、東風平中の70年を俯瞰し、これから何をどう頑張るのか問いかけてみて、「創立100周年のとき、あなたはどこで何をしているのだろうか？」と、想像させてみようかなと思っている。

今社会はどのように劇的な変化を遂げているのか。20年後・30年後に輝くためにどのような力を身に付けていくべきなのか。中学生にわかる言葉で語ってみたい。東風平中100周年の時は、彼らは45才前後となり社会の中核として活躍しているだろう。どこで活躍するにしても「ふるさと八重瀬町、母校東風平中」を心に刻んで頑張りたいものである。

私は30年後は91才……。♪♪千の風に、千の風になって♪♪。(笑)

## 11月8日（水）その93 プレッシャーを引き連れて戦うのがボクサー

10月22日、自民党が衆議院選挙に圧勝した日、WBAミドル級タイトルマッチで村田諒太が因縁の相手「アッサン・エンダム」に7回TKO勝ちで、新チャンピオンになった。両者は5月にも対戦した。私もその試合をテレビで見たが、エンダムをダウンさせるなど素人が見ても村田の勝利と思われた。しかし判定は2-1でエンダムだった。次の日から世界中で採点に批判が相次ぎ、大変な騒動になった。WBAのヒルベルト・メンドサ会長は、自分の採点でも村田が勝っていたと疑惑の採点を謝罪し、エンダムを支持したジャッジ2人を資格停止処分にするるとともに、2人の再戦を指示していた。

村田はご承知のように2012年ロンドンオリンピックの金メダリスト。その翌年、27才でプロ転向を表明した。彼が中学生の時ヤンキーだったことを知っているだろうか？公務員だった両親の離婚で、中学生になった頃から彼の生活は荒れていた。ケンカ以外に夢中になれるものがなかった。

しかし彼は中学でボクシングに出会って、無心にボクシングに打ち込んだため、生活が一変した。高校の2年生で3冠、3年生で2冠を制して、強さはこのころから際立っていたようだ。でも彼は2008年の北京オリンピックの代表になれず、一度引退して母校東洋大学の職員、指導者の道を歩み出した。が、いくつかの理由で期するところがあり現役に復帰した。2009年から日本選手権を3連覇して、ロンドンオリンピックの切符をつかんだ。

村田を支えたのは奥さんの佳子さん。東洋大学の職員で同僚だったらしい。奥さんはとてもポジティブな性格で、オリンピックの前に冷蔵庫の扉に「金メダルを獲りました。ありがとうございます。」と書いた紙を貼って、彼を支え続けた話は有名である。村田のプロポーズのエピソードが面白い。バレンタインデーにヘリコプターをチャーターして東京の景色を眼下に眺めながら「東京で一緒に暮らしていこう」とプロポーズしたものの、プロペラの大音量にかき消されて全く聞こえなかったそうだ。

村田は「趣味は子育て」というほど子煩悩。佳子夫人との間には6才の長男と3才くらいの長女がいて、試合の前には何度も彼らの写真や動画を見て、心を落ち着けているという。守るべきものと帰るべき場所があることが、強さの秘密なのだろう。

先日テレビで1時間の密着取材番組を見たが、彼はホテルの部屋にも必ず哲学書を2～3冊持ち込むほど、読書家であるらしい。「アドラー心理学」、「夜と霧」などの話をしていた。「たった一人でリングに上がる恐怖を克服するため」、「金メダル保持者で、勝つことを義務づけられているプレッシャーと戦うため」父親に勧められて哲学書を読んでいるのだそうだ。読書家だから彼のインタビューの語彙力がすごい。3つ紹介して、話を締めよう。

○注目されているのは分かっていますし、プレッシャーなんてものは引き連れて戦うのがボクサーだと思っています。

○やれることは何かといえば、自分のいいところを出すだけ。ガードを上げてプレッシャーをかけて、強いパンチを打ち込んでいく。それが通用するかどうかの、単純な話なんです。

○チャンピオンベルトを巻いたからといって急に実力が上がるわけではない。世間の評価は上がっても、自分の実力は一步一步しか進んでいけません。そういう意味では謙虚に、堅実に進んでいくしかないかなと思います。

## 11月9日（木）その94 実効性のある仕組み作り－大学との連携協定－

私はときどき「90分講話」の中に「金太郎型」、「桃太郎型」のどちらの教員が望ましいのか？との話を挟むことがある。熊などの動物たちをバツバツと倒していく金太郎は、自身が強力な力を持っている。それに対して桃太郎は、「きびだんご」を活用して猿、キジ、犬に働きかけた。すると彼らは鬼退治という同一の目標に向かって、それぞれのよさを発揮しつつ一致協力して働き、大きな目標を達成することができたのである。

「チーム学校」が強調されている新学習指導要領においては、いわずもがな「桃太郎型」の教員が望ましいのである。そのような教員集団を目指すとき、大切なことは「仕組み作り」（システム化）なのだ。

人事異動で人が替わっても同じようなことを実践し効果を出し続けるには、「仕組み作り」が大切である。あるすごい実践をする人がいても、その設計図がその人の頭の中だけにあり、他の人が真似することができないとすると、「金太郎型」の教員なのだ。その人が転勤すれば全てがなくなってしまう。それに対して紙の上にそのことを成し遂げるための仕組み（構造、プロセス、システムなど）を写し取っておけば、みんなで共有することができる。はやりの言葉で言えば「見える化」だろうか。「仕組み」ができ、「見える化」されていれば、誰でも継続して取り組んでいくことができる。

先週から今週にかけて、沖縄女子短期大学や琉球大学と南部広域行政組合教育委員会との、連携推進会議が開催された。年に3回開催されている。その仕組み作りがきちんとなされていて、軌道に乗り実効性のある取組が行われている。島尻教育研究所の長期研修や短期研修に多くの専門の先生方を派遣していただき、大きな成果を上げているのである。沖女短大から「幼児教育」、琉大から「小中の新学習指導要領の内容にかかる研修」の専門家を派遣していただいている。

この連携・協定は、島尻教育研究所の一つの屋台骨になっていて、研究を推進するシステムがガッチリとできている。その仕組み作りをなさった先輩の職員の皆さんがいたのである。もちろん一人だけの力ではなく、多くの先輩所長や指導主事の皆さんの「積み上げの上に咲いた花」なのである、感謝!!

島尻教育研究所の20周年記念誌に当時の上原勝晴所長が、「広域だからできる、広域にしかできない事業等に取り組んできた。」と述べている。本研究所の事業は、まさに時代の要請に応じた先進的な研修や他の研究機関ではやってないような独創的な事業が多くある。

県内の他の教育研究所は、単独の市町村ごとに設置されているが、本研究所は、10の市町村が負担金を出し合って設立されており、これは県内では他に例がない方式である。もちろん県教育庁にも、指導主事の配置や県費負担教職員の補充教員の配置などで全面的に協力していただいている（感謝!!）。また県教育庁島尻教育事務所の指導管下と、島尻教育研究所の担当区域が全く同じ市町村で構成されていることも大きな強みである。「島尻は一つ」「島尻地区のために」と、研修会等を連携して取り組んでいる。

さて平成30年度の長期研究員の募集が始まった。ネットで見ている該当する皆様方、あなたも来年度、当教育研究所で自己研鑽をしてみませんか。